

平成 30 年度 自己評価について

保育者の自己評価から

保育者には、以下のような項目の自己評価を課した（四段階評定による）

- ① 保育理念
- ② 保育の実践
- ③ 環境設定
- ④ 子どもへのかかわり
- ⑤ チームの一員としての意識
- ⑥ 保護者支援

概ね良好な結果であったが、③環境設定、④子どもへのかかわり、⑥保護者支援 については、一部改善が必要との回答も多かった。環境設定は当園の保育理念を展開するための必要不可欠の手段である。保育者が子どもとの適度な距離感を常に意識すること、また、保護者との信頼関係の構築。どれも大切な課題であるため、今一度再確認の必要性を感じている。

保護者アンケートから

・回収率約 5 割

・質問事項：

- ①保育方針について
- ②行事について
- ③子育てに関する相談に関すること
- ④子どもの成長（記述式）

・結果

☆ほぼ、保育理念に賛同して頂いている

☆主な好意的な意見（原文のまま）

○自分で考えて製作をしたり、イメージしたものを自分なりに作れるようになった。年上の子といることもあり、○○くんみたいになりたい、と憧れを持ったり、年上の子がやっていたことを自分でもやってみようとする姿が色々な場面でみられた。友だちとのかかわりも多くなり、兄弟以外の子に対しても親しみを持って接するようになり、うれしいです。

○この一年で、お手伝いをしてくれることが多くなりました。私（母親）が具合悪いとき、自分のごはんを用意しようと、納豆やバナナ等、準備してくれた時はうれしかったです。

○自分で何かしたい！ という意志を持てるようになれたと思います。

○対人関係での成長が見られました（相手の気持ちを考える等）。

○おともだちとの関わりの中で、仲良しの子がたくさん増えたこと。ひらがな、カタカナに興

味をもって覚えることができた。言葉でちゃんと伝えることができるようになった。自分のことは自分ですすんでできるようになった。

★要望等

○行事については、保護者が参加するもの（例えば誕生日会等）を増やしてほしい、という意見が少数あった。

○保育者と保護者の相談等については、お迎え等の時間帯によっては、なかなか担任を話すことが難しいこと、気軽にその日にあったことを話せるようにしてほしい、という意見があった。

★批判的な意見

○保育者とのコミュニケーションのとり方について、批判的な意見があった。送迎の際、保護者にとって気持ちの良い対応が取れていない、担任から直接今日の出来事や連絡事項等の報告ができるよう努力してほしい内容であった。

○行事（運動会・発表会）における音響の問題について

考 察

保育者の自己評価から以下のようなことを感じた。

保育理念とそれに基づく保育の方法については、繰り返し園内研修、外部での研修等で再確認する必要がある。すべての保育者が、研修で学ぶ機会を年一回は確保すべきである。

また、今回の自己評価において、必要以上に自分に対して過小評価をする傾向があるように思った。保育者にも子ども同様、自己肯定感を高めていくようはたらきかけていきたいと思う。

保護者アンケートでは、昨年度同様概ね保育に対して好意的な意見が多数を占めた。しかしながらその一方で、批判的な意見があったことは見逃すことはできない。特に、保育者の保護者対応に不満があるということは、大きな問題であると感じている。すべての保護者に、当園に対して満足していただき、信頼感をもっていただけるようこの教訓をいかしていきたい。